

## 令和3年度 学校評価自己評価

## 重点目標1 意欲を高める授業づくり

～キャリア教育の視点を重視し、主体的な学びを実現するためのICT機器を活用した授業づくり～

## 重点目標2 安全・安心な学校づくり

～安全教育の充実及び機動的な安全管理の徹底～

評価基準； A：達成できた(90%以上) B：ある程度達成できた(80%以上) C：やや不十分、一部改善の余地がある(60%以上) D：改善が必要である(60%未満)

## 知的障害教育部門 小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○ICT機器を活用し、児童の興味関心を高め、自分から物事に取り組もうとする力を育む。	・教員のICT機器に関する技術を上させ、効果的な指導を行えるようにする。 ・タブレット端末を活用し、児童の興味・関心を引き出す学習を展開し、主体的な学びを促す。	・タブレット端末を活用した授業を各ブロックで年間6回以上実施することができたか。 ・ICT機器を活用することで、児童が主体的に学習に取り組む場面が増えたか。	A	・研修や指導事例の共有を通し、ICT機器に関する教員の技術が向上し、タブレット端末を活用した授業を多く実践することができた。 ・ICT機器を用いて映像で手本を示したり、リモート学習を行ったりしたことで、児童の理解が進んだり、主体的な態度で学習に臨む様子が見られるようになった。	・活用を進めていく中で、新たな課題も見つかった。児童が正しく安全に使用するための指導の必要性や、従来の教材の良さも生かした指導の精選、発達段階に応じた取り入れ方等、適切な活用方法を今後も検討していく必要がある。
重点目標2	○教員の危機意識を高め、ヒヤリハット等の情報を共有しながら安全管理の強化に努める。	・ヒヤリハット事例を共有する。 ・「安全・安心な学校づくりチェック票」(以下、「チェック票」)を毎月実施する。 ・学年毎に月1回、安全面や児童指導上の配慮点などについて話し合い、対応策を検討する時間を設ける。	・ヒヤリハット事例やチェック票を活用することができたか。 ・危機意識を高め、教員間で共通理解を図りながら学習活動や児童への対応を行うことができたか。	B	・ヒヤリハット事例やチェック票の活用、学年毎の定例の話し合いを通し、個々の教員の危機意識が高まり、学部全体で連携を図りながら安全管理を強化することができた。	・年度当初には新しい環境の中、ヒヤリハットが多く発生した。次年度も同様のリスクが考えられるため、児童の実態や対応策についての引き継ぎを十分に行っていく必要がある。

知的障害教育部門 中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○ICT 機器を活用し、生徒の自立に向けた指導を実践する。	・タブレット端末を活用し、生徒の実態に合わせた内容や指導を実践することで、主体的な学びを促す。 ・教員のICT活用能力を高められるよう、学部や学年で指導内容や指導方法を検討する。	・生徒が主体的に活動する場面が多く見られるようになったか。	B	・タブレット端末を使った授業は意欲的に取り組み、使用方法を覚え活用できる生徒が増えた。しかし、タブレット端末を活用した指導は不十分であったと感じる教師もいた。	・今後も授業で積極的にタブレット端末を使用していく。また、学部だよりにタブレット端末を使用した授業の記事や写真を掲載し、保護者への周知も行っていく。
重点 目 標 2	○教員の危機意識を高めながら安全教育を実践することで、安全管理を強化する。	・ヒヤリハット事例を共有し、指導を工夫・改善する。 ・チェック票を毎月記入し、振り返ることで教員の危機意識を高める。	・共通理解を図り、指導を工夫・改善することで、安全面を強化することができたか。	B	・ヒヤリハット事例を共有し、教員のポジショニングなどを意識して指導できた。 ・チェック票で振り返ることで危機意識を高めることができた。	・チェック票での振り返りやヒヤリハット事例の共有により、更に危機意識を高めながらチームとして安全体制を整えていく。

知的障害教育部門 高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○ICT 機器を活用しながら、生徒の社会参加へ向けた指導を実践する。	・生徒個々の課題を把握し、ICT 機器も活用しながら、主体的に活動する力の向上を図る。 ・教員のICT機器活用能力を向上させ、学習に取り入れる。	・年度当初に比べ、個々の主体性の伸長が見られたか。 ・生徒の特性に応じ、効果的にICT機器を活用することができたか。	B	・生徒の実態に応じ、タブレット端末を活用した授業を展開することができた。 ・タブレット端末の機器が身近になり、積極的に学習に取り組む姿が多く見られた。	・今後、研修等をして全ての教員が使い慣れ、指導できるようにする。
重点 目 標 2	○安全教育の充実に向け、職員の危機意識を高め、安全・安心を重視した学習環境を設定・実践する。	・チェック票を活用し、安全教育の意識を強化する。 ・ヒヤリハットをもとに、生徒の支援方法や事故防止策等を共有する。	・安全面への強化に努めることができたか。 ・支援方法等を共有することができたか。	B	・チェック票を活用することにより、安全の意識を向上させることにつながった。 ・他学部の事例も参考にしながら、日々の指導や学習環境を見直すことで、未然防止をすることができた。	・今後も事故防止に気を付けながら指導にあたる。

肢体不自由教育部門 小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	<b>【通常の学級】</b> ○身近な生活での役割を果たし、自主的に生活や学習に臨もうとする意欲を高める。	・役割を理解して主体的に取り組める場面設定を行う。 ・ICT 機器を活用し、興味・関心の幅を広げるとともに、意欲的に学べる環境を設定する。	・自分の役割に主体的に活動に取り組むことができたか。 ・ICT 機器を活用し、意欲的に学習に取り組むことができたか。	/	・今年度在籍なし	/
	<b>【重複障害学級】</b> ○身近な人に対する表現力を高めるとともに、様々な事物や身近な生活への興味・関心を高め、人や物に自ら働き掛けたり、行動したりする意欲を高める。	・個に応じた表出の方法を指導者間で共通理解し、児童が選択して意思表示する場面を増やす。 ・日常生活の指導、自立活動、教科の学習などで、教材や環境の工夫、ICT 機器の活用を行い、児童の主体性を引き出す活動を設定する。	・身近な人に、自分なりの方法で表出や選択をすることができたか。 ・児童が興味・関心を持って活動に取り組んだり、人や物に自ら働き掛けたりすることができたか。		B ・一人一人の表出を丁寧に読み取り、指導者間で話し合いながら、意思理解や意味付け、表出方法の環境設定などの手立てを講じた。伝わる経験を重ね、自分なりの方法で選択や表出する場面が増えた。 ・様々な授業で ICT 機器を活用した。タブレット端末を活用した買い物学習では、児童が進んで手を出そうとする姿が見られた。また、音楽や自立活動などで、児童の反応に応じて柔軟・即時的に活用できたことで、意欲の向上や学習の深まりが見られた。	
重点 目 標 2	<b>【B 部門共通】</b> ○教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染防止対策を強化する。	・日常の学校生活において、健康・安全上、留意すべき事項をリスト化した「B 部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また、昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。 ①車椅子の乗車時の適切な乗車方法 ②安全な摂食指導 ③教育環境の整備	・具体策①②③について、B 部門チェックリストに○印がついた割合が 100%に近づけたか。○印の総数(19 項目×12 人)を基に評価する。	B	・チェック票を活用した月一回の話し合いや B 部門チェックリストの実施により、安全面の配慮や感染防止、発作等への緊急時対応などにおいて留意すべきことが職員間で具体的に共有され、円滑に実施することができた。具体策①②③において、以前より 90%台の項目が多く見られるようになった。	・今後も、安全への意識を維持できるよう、継続して行う。また、90%以下だった①車椅子乗車時の姿勢②摂食指導時の痰の絡みやむせの項目については、PT,OT や専門性の高い教員からの助言を受けながら、個々の児童に対応できるようにする。

肢体不自由教育部門 中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	<b>【通常学級】</b> ・自己理解を進め、人との関わりを通じて、自分の考えを適切に伝える力を身に付ける。	・自己肯定感をもって自分から人と関わることができるよう、学校生活全般において教師からの承認、賞賛、激励を行う。 ・自立活動や総合的な学習の時間、学級活動等で職業や進路についての学習を、ICT 機器を活用して行う。	・自分から相手に対して自分の考えを適切に伝える機会が増えたか。 ・ICT 機器を使って自分の進路について考える学習をすることができたか。		今年度在籍生徒なし	
	<b>【重複障害学級】</b> ・学部の教師に対して、自分なりの方法で相手に分かるように伝える力を身に付ける。	・生徒の実態に応じて、生徒が分かる方法で、指導支援を行う。 ・授業や日常生活においてカードやスイッチ教材、タブレット端末等を活用し、生徒の興味・関心を高める工夫をする。 ・自立活動の事例検討会で定期的に評価、改善をする。	・生徒が自分なりの方法で身近な教師以外の職員に伝えようとする場面が増えたか。 ・生徒の成長や変容が見られたか。	B	・担任以外の教員と落ち着いてやりとりしたり、自分から相手に近づき、やりとりを楽しんだりする様子が見られた。 ・場面に応じた挨拶や言葉遣い、身振りが身に付いてきた。 ・タブレット端末で朝の会の進行をしたり、カメラ機能を授業に活用したりした。やりたい気持ちを声や身振りで伝えたり興味を示したりする様子が見られた。 ・事例検討会は授業や指導支援の工夫、改善に役立った。	・より分かりやすい教材を研究しながら指導支援をする。 ・日々の学習の積み重ねが重要であるため、継続して取り組む。
重点目標2	<b>【B部門共通】</b> ・教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の安全管理、感染症対策を強化する。	・日常の学校生活において健康・安全上留意すべき事項をリスト化した「B部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。 ①車椅子乗降時の適切な乗車方法。 ②安全な摂食指導 ③教育環境の整備	・具体策①②③に○がついた割合が100%に近い。丸印の総数(19項目×13人)を基に評価する。	B	・ヒヤリハットがあったが、その都度対応策を話し合っって学部や部門で共有し改善に努めることができた。 ・チェック票を活用した月一回の話し合いや、気づいた際に互いに言葉を掛け合ったり、教室内の職員間でこまめに話し合ったりすることで、危機意識を高め、指導にあたることができた。	・引き続きヒヤリハット事例の共有とチェックリストの実施をする。 ・教員間でしっかりと共通理解を図って指導にあたる。 ・アンテナを高くして情報を収集し、課題に直面した時に備える。

肢体不自由教育部門 高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	<b>【通常学級】</b> ○自己理解を深め、関わる人に合わせて適切な対応をすることができる。	・自分の感情、他者の感情、自己認識や行動の調整等を自立活動やホームルームで学習をする。	・関わる人に合わせた適切な対応ができたか。	A	・生徒の気持ちを受け止め、気持ちを言語化することで、感情のコントロールの調整に努めた。その結果関わる人に適切な対応ができてきた。 ・資格取得に向けた前向きな学習に取り組めた。	・卒業まで継続して指導していく。
	<b>【重複障害学級】</b> ○身近な人に対して適切な方法で思いや考えを伝えることができる。	・職業、商業、ホームルーム等で、ICT機器を活用し進路についての学習に意欲的に取り組めるようにする。 ・日生、国語、音楽等で興味関心を持てる教材を使用し、主体的に学習ができるよう、繰り返し場面を設定する。 ・ICT機器を活用して授業を実施する。  ・自立活動事例検討会で定期的に評価、改善をする。	・自分の進路を考えて、資格取得に向けて主体的に学習に取り組めたか。 ・授業での発言回数や、振り返りの反省改善の様子をまとめて評価する。  ・ICT機器を活用した授業を行い、生徒の主体的な様子が見られたか。 ・生徒の変容が見られたか。	B	・生徒が興味を持てる教材を使用することで発言回数が増えたり、主体的に取り組む様子が見られたりした。 ・各教科ともタブレット端末、各スイッチ教材を活用したことで、主体的に意欲的に学習に取り組もうとする様子が見られた。 ・事例検討会で、指導助言を受けたことで、生徒への教材の提示や指導方法が変わり、生徒の変容が見られてきた。	・教員間で情報の共有をし、生徒が主体的に学習できる環境や教材を工夫していく。 ・個に応じたICT機器の活用の充実に向けて、情報の共有と事前の機器の準備をする。  ・指導の記録を定期的にとりおく。
重点目標2	<b>【B部門共通】</b> ・教職員の危機意識を高め、肢体不自由のある児童生徒の安全管理、感染症対策を強化する。	・日常の学校生活において健康・安全上留意すべき事項をリスト化した「B部門チェックリスト」を全職員で共有し、丁寧に児童生徒の観察を行う。また昨年度ヒヤリハット事例が多かった以下の項目について重視し、再発を防ぐ。 ①車椅子乗降時の適切な乗車方法。 ②安全な摂食指導 ③教育環境の整備	・具体策①②③に○がついた割合が100%に近いか。丸印の総数(19項目×13人)を基に評価する。	B	・車椅子乗車時の2つの項目が91.7%で他は100%だった。 ・月に1回、チェック票を活用した話し合いをすることで、教員間で情報の共有をし、事故なく過ごすことができた。	○教室環境を学習毎に確認をしていく。 車椅子の乗降時、気をつけることを再確認して指導にあたる。

## 訪問教育学級

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○コミュニケーションツールとして、ICT 機器等を活用し、児童生徒の学習意欲向上を図る。	・職員の ICT 機器の活用能力が向上するよう部内で研修を行う。 ・リモートでの交流や、DVD 等で ICT 機器を有効に活用していく。	・ICT 機器を活用し、児童生徒の学習意欲の向上が図れたか。	B	・情報部の教員に協力を得て、スムーズにリモート授業を行うことができた。 ・在宅生徒については、自宅と学校をリモートでつなぎ、授業や行事に参加することができた。 ・星風院児童生徒については、施設内の会議室とのテレビ授業や教材 DVD を活用し、学習意欲の向上を図ることができた。	・リモート授業でより活用できる教材（視聴覚関係）を考え、学習意欲の向上を図っていきたい。
重点 目 標 2	○児童生徒の心身の状況を的確に把握しながら、安全な指導を行う。	・授業日の体調について、事前に保護者、施設職員に確認する。 ・感染防止対策として、教職員自身の健康管理と指導上の環境衛生の徹底に努める。	・毎回の授業でこれらを行い、事故等なく、安全に指導できたか。	A	・在宅生徒については、保護者に事前に体調確認を行い、無理なく授業を行うことができた。スクーリング(行事)については、安全面や体調に配慮して、リモートでも行うことができた。また、感染防止対策を行い、教職員自身の健康管理も徹底することができた。	・今後も健康管理、衛生対策を徹底させていきたい。

## 分教室

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○ICT等を活用した授業を行うことで、児童生徒が、自ら学ぼうとする気持ちを高める。	・職員のICT活用指導力が向上するよう部内で研修する。 ・各教科の指導で積極的にICT機器を有効活用する。	・児童生徒が、ICT活用の授業を受けて、学習目標等を達成することができたか。	A	・新しい機器の導入に伴い、適宜研修を実施した結果、視覚的に効果のある教材として大いに活用できた。児童生徒達が意欲的にPC等で調べ学習等に取り組む姿が見られた。 ・学習場所(教室やベッドサイド)や内容、時間に配慮し、体調に合わせた指導を行う際にもICT機器は有効で、興味関心を高めながら分かりやすい授業を行うことができた。	・今後も機器操作等の研修を積み重ね、個々のICT活用指導力を向上させていく。 ・児童生徒の実態(病状、習熟度等)に合ったサイト等の学習教材を研究し、授業に活かしていく。
重点 目 標 2	○病棟と連携しながら、防災・感染症に対する意識をさらに高め、安全な教育活動を行う。	・日常的に病棟と安全管理の確認をし、全員が情報を共有しながら実践していく。 ・これまでのヒヤリハット等の案件を振り返り、改善策を話し合う場を設ける。	・病棟と円滑に連携しながら、安全管理に努めることができたか。 ・全員が協力しあって、事故、怪我なく指導支援できたか。	A	・職員全員で教室内の環境整備、児童生徒の状態確認等を細やかに徹底して行い、事故怪我なく安全に教育活動を行うことができた。 ・他学部でのヒヤリハット事例を受け、分教室においても関連することを全員で確認し事故防止に努めた。	・今後もさらに、病棟と連携しながら、感染症、事故防止の安全対策を行っていく。 ・病棟連絡会議等で、病棟における新たな対応策や変更等を確認する。

教務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○基本研修等の校内研修を通して、教職員の ICT 機器活用を高め、実践につなげる。	・ICT 教育推進委員会および情報部と連携し、機器の活用方法についての研修を行う。また、機器を活用した新たな行事の持ち方について提案・実践し、授業内容を考える手掛かりとなるようにする。	・ICT 機器を活用した授業の事例が各学部に見られたか。知（小中高）、肢（小中高）、病の 7 学部を対象に評価する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で、GIGA タブレット端末、iPad などの ICT 機器を活用した授業の事例が見られた。</li> <li>・ Teams や Zoom を使い、オンラインでの授業や行事、研修の受講について、的確にサポートをして実践につなげることができた。</li> <li>・ 新任者研修、希望者研修の受講者が、周囲の教職員に活用法を伝える事例が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GIGA タブレット端末を使った個別学習の場面で、インターネットを使った調べ学習だけでなく、国語や算数（数学）などの教科学習で活用できるアプリが使えるとよい。</li> <li>・ 情報部に過度な負担がかからないように配慮しながら、次年度も連携して業務を進める。</li> </ul>
重点 目 標 2	○異常気象に対する学校安全管理について、教職員への啓発を図る。	・ 気象状況により予想される事象（熱中症、浸水、転倒災害等）について校務日誌に記載して周知し、安全管理の徹底を喚起する。	・ 教職員が自ら安全管理対策を行う行動が増えたか。行動観察により昨年度と比較し評価する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱中症が心配な時期は、外での活動前に WBGT を計測する教員が増えた。</li> <li>・ 雨が降ったときには、通路などにタオルを設置したり、強風のときには窓や通路の出入り口を閉めたりするなどの対応をする様子が多く見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も主幹教諭と連携しながら、校務日誌や朝の打ち合わせなどを通して周知する。また、気象以外の安全に関することも、啓発していく。</li> </ul>

情報部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○会議や研修、授業といった各場面で情報器機の準備を行ったり、サポートをしたりする。	・職員会議等で機材の準備を行い、技術面でのサポートをする。 ・GIGA スクールタブレット端末の準備、設定を行い、授業で用いるときのサポートを行う。	・機材の準備、回議のサポートなどを行う。 ・GIGA スクールタブレット端末の準備、設定を行う。	A	・職員会議やその他依頼があった時に準備、サポートを行うことができた。 ・予定では1学期中にGIGA タブレット端末の準備をすることになっていたが、6月中に準備をすることができた。そのため、1学期中から使用を開始することができた。アップデートに関しては係で行うことができた。	・今後も継続していく。また、誰でもできるようにバックアップしていく。 ・係任せではなく、アップデートに関しては担任などに任せていきたい。
重点 目 標 2	○情報モラル研修を通して、安全なネットの活用法を示す。	・教員研修を行い、教員の安全意識の啓発を行う。 ・PC の活用法についての情報提示を行う。	・安全モラル研修を行い、教員にネットを安全に使うという意識を持たせる。	A	・学部ごとに研修を行いネットに対する安全意識について周知することができた。 ・PC の使い方やアプリの使用方法について研修を行い、情報を共有することができた。	・今後も継続して行う。 ・活用法など情報収集を行い、今後も情報の提供をしていく。

## 学習指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○児童生徒の主体的な学びを実現するため、ICT 機器の活用なども含め、障害の特性に応じた授業づくりを推進する。	・授業が児童生徒にとって主体的な学びとなっているかを客観的に振り返ることができるように、授業改善シートを作成、周知し、活用を促していく。	・主体的に取り組む姿の観点についてアンケートを行い、シートに反映させて作成する。 ・シートの活用について周知し、日々の授業の振り返りや「単元題材指導計画」の反省及び改善の参考としての活用を推進する。	B	・「授業中に主体的に取り組んでいる姿」についてのアンケートを行い、回答の中からいくつかの観点を選んで、授業改善シートに反映して作成した。シートの活用については、各学部で係が説明を行い、研究授業等において授業者や学部主事に使用していただき、記載項目についての意見をいただいた。	・研究授業では活用できたが、日々の授業の中での児童生徒の主体的な学びの振り返りとしての活用は不十分であった。今後は、単元題材指導計画の「反省及び改善点」の記入の参考としてシートを活用も含めて、児童生徒が生き生きと学べる授業作りが効果的に行えるように推進していきたい。
重点 目 標 2	○学習で使用する教材教具や遊具の状態について事前に点検を行い、学習計画の中で共通理解を図り安全管理を強化する。	・単元題材指導計画の「指導上の留意点」に児童生徒の事故防止に配慮した内容を記入することを周知し、担当者間で共通理解を図れるようにする。	・単元題材指導計画の提出時に、「指導上の留意点」に事故防止に関する内容が記載されていたかを確認する。	B	・年度始めと夏休み前に単元題材指導計画の書き方についての説明を学部毎に行い、事故防止に関する内容を記載して安全面に配慮するように連絡を行った。提出時に係がチェックを行った。	・提出前に記載漏れがないように連絡を行ったが、記載がないままで提出されたものもあった。また、学習活動中のヒヤリハットの事例報告もあったため、今後も継続して事故防止と安全管理を強化していきたい。

## 交流教育部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○間接交流等において関心を高める支援や教材を工夫する。	・分かりやすく、見通しを持てるように動画や写真等を活用する。	・分かりやすい教材の準備をすることができたか。 ・見通しを持って取り組むことができたか。	B	・自己紹介動画や手紙などを用いて交流相手について知ることができた。 ・直接交流でないため、分かりにくさがあったものの、自己紹介や作品作りなどに意欲的に取り組んでいた。	・オンラインでの交流も検討していきたい。 ・感染状況を見ながら、直接交流も行えると良い。
重点 目 標 2	○児童生徒の安全を考えて交流等の計画、実施を行う。	・安全対策、感染防止対策を考えて計画を立てる。 ・感染症の状況等を見て、臨機応変に対応する。	・安全や感染防止対策について十分に検討して計画を立てることができたか。 ・安全に実施することができたか。	A	・居住地校交流が始まる時期に緊急事態宣言が出されたため、直接交流は行わないこととした。今年度の交流は全て間接交流ではあったが、動画などで交流相手と互いのことを知ることができた。	・今後も感染状況等を見ながら、安全に計画、実施していけると良い。

## 生徒指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○児童生徒が安心して学校に登校し、意欲的に学習に取り組むことができる環境を作る。	・児童生徒が成功体験を積み重ねたり、達成感を味わうことができたりするような授業を行うことで、児童生徒の主体性を育成する。	・児童生徒の出席率を高めることができたか。	B	・学校全体として、不登校傾向のある児童生徒は減少している。	・次年度以降も継続した取組を行うと共に、ケース会議や問題行動等校内支援委員会などの場面において共通理解を図り、複数の教員で役割分担を明確にして対応する。
重点 目 標 2	○安心・安全な学校づくりに向けて、学校環境の整備に努めるとともに、教員の資質や能力の向上を図る。	・事件や事故が発生した場合に迅速で適切な対応ができるよう、教員の資質や能力の向上を図る。	・研修や訓練などを通し、教員の資質や能力を向上させ、個々の危機意識を高めることができたか。	B	・不審者対応訓練や校外捜索訓練を複数回実施することで、教職員の役割分担を確認し、危機意識を高めることができた。	・不審者対応訓練では、不審者の侵入経路を事前に伝えないなど、次年度以降は設定を変えながら実施することで教職員の対応力を高めていくことを目指す。

## 健康指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○教職員の ICT 機器活用を推進し、感染防止対策を講じた授業を実践に繋げることができる。	・情報部と連携し、ICT 機器を活用した授業展開例等を共有できるようにする。	・各学部において、ICT 機器を活用し、感染防止対策を講じた授業を展開することができたか。	B	・各学部において、感染防止対策を講じ工夫して授業を行うことができた。また、ICT 機器を活用した授業を展開している様子を係で共有することができた。	・今後も、感染防止対策等に引き続き取り組んで行く。
重点 目 標 2	○学校における感染防止及び事故の未然防止に向けて教職員の意識を高めると共に、環境整備に努める。	・研修を通して教職員の意識を高め児童生徒指導に取り組むとともに、日常的に危険箇所や物品等の点検及び対策に努める。	・研修等を通し、教職員が意識的に児童生徒の指導に当たり防止対策を行うことができたか。	B	・動画視聴による研修を行った。データの保存場所を周知し、随時視聴できるようにした。感染防止及び事故の未然防止に向けた教職員の意識を高めることができた。 ・危険箇所や物品等の点検を適宜行うことができた。	・研修動画の内容を確認し、次年度に向け必要に応じて更新していく。  ・日常的に危険箇所や物品等の点検及び対策に引き続き取り組んでいく。

## 進路指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○進路や実習についての学習において、関心を高める支援や教材を工夫する。	・具体的にイメージできるよう動画や写真等を活用する。	・分かりやすい支援や教材の準備ができたか。	B	・産業現場等における実習の動画データや写真、福祉施設等のパンフレットを、適宜活用して進路指導を行うことができた。	・進路指導部で提供可能な情報や資料について、全体へ周知できるようにしていく。
重点 目 標 2	○教職員の安全に対する意識を高め、産業現場等における実習などにおいて、安全に学習できるよう計画・実施する。	・作業内容や実習先までの経路が安全か事前に十分確認を行う。 ・生徒の体調をチェックシートで確認できるようにする。 ・事故等に遭遇した場合の対処法を事前に確認する。	・校外での学習を事故なく実施できたか。	B	・産業現場等における実習や福祉施設の体験等、事故なく、安全に実施することができた。	・実施前にその都度作業内容や実習先までの経路、生徒の状況を確認することで、教員の安全に対する意識を高め、事故なく安全に実施できるよう努める。

## 渉外部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 2	○PTA 役員と共に危機意識をもち、安全管理を行いながら、PTA 活動を行う。	・栃木県における感染レベル状況、学校での学習活動の取組などを、その都度情報として伝えていく。 ・PTA 活動用の新型コロナウイルス感染症対策のチェックリストを作り、PTA 役員と共に確認し合いながら活動を実施する。	・役員会で情報を提示し、理解を得ることができたか。 ・感染防止対策をとって、実施することができたか。また、活動後に反省をとり、次の活動に生かすことができたか。	B	・PTA 活動を検討する際には、その都度感染レベルの状況を伝え、感染症対策について話題にし、検討することができた。 ・会場の広さ、公民館の利用、人数制限、時間調整、席の固定や担当場所の分散、検温、消毒、マスクの着用など、感染症対策をとりながら実施することができた。	・次年度もその都度情報を提供する。また、PTA 活動を検討する際には、今年度同様、最終判断時期を決めるようにする。 ・今年度の反省を生かし、感染症対策として行った内容を一覧表(チェックリスト)にし本部役員会で検討した。次年度のPTA 活動を検討する際に生かしていく。

## 地域支援部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 2	○体験学習では、感染防止行動の徹底と事故の未然防止に向けて共通理解を図り、社会状況に応じて各学部、関係機関と連携し機動的に対応する。	・実施前には、使用する教材等の安全確認を行き、検温や実施中の換気、消毒、手洗いの徹底を周知する。(学習指導部、健康指導部と連携する)  ・体験の実施の変更について、事前に想定し、すぐに対応できるようにする。	・感染防止対策を行い、安全に実施することができたか。  ・状況に応じて関係機関と連携し、迅速に対応することができたか。	A	・チェック票を参考に、安全な実施を意識してもらうよう学部ごと呼びかけを行った。また、感染症対策の観点からも、人数や実施時間を調整し安全に実施することができた。  ・参加者の体調や感染状況に応じて日時の変更や参加者を分散させるなどの臨機応変な対応をとった。その際、校内、市町教育委員会、保護者、所属学校との連絡調整では、誰がどこに連絡をするのか明確にしながら迅速に対応することができた。	・今後も、体験学習で使用する教材・環境等の安全確認、コロナ対策を行って実施し、参加する幼児・児童・生徒に対して複数の目で観察し、状態に応じて安全に対応できると良い。  ・変更になった場合の連絡方法について、事前に確認しておくことで、よりスムーズに調整することが可能である。

## 舎務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○集団生活の中で、適切なコミュニケーション方法の指導に努める。	・舎生同士が適切な距離感を保ちながら関わりを持つことができるように、友達と協力して活動する場面を意図的に設定する。	・寄宿舎生活の中で自分の考えを伝えたり、話し合ったりして、互いに協力することができたか。	B	・限られた場面ではあったが、お風呂清掃や挨拶当番、おやつ準備や片付けにおいて、自ら他舎生に声を掛け話し合う場面も見られるようになり、舎生同士が互いに協力して活動することができた。	・ブロック会を再開するなどし、舎生が話し合う場を多く設定する。
重点 目 標 2	○舎生が、身の安全や感染予防への意識を高めることができるよう指導に努める。	・災害時や不審者の侵入時等に身を守る方法を具体的に学ぶために、オリエンテーションを実施する。  ・感染防止のため、定時(下校後・食事の前・19時20時21時)や、必要に応じた手洗いうがいについての掲示をする。	・避難時の基本的な身の守り方や、避難場所を理解することができたか。  ・活動の前後に手洗いやうがい、消毒をすることができたか。 ・鼻をかんだ後に手を洗うことができたか。	B	・地震が起きたときにダンゴムシのポーズを取り、机などの下に隠れることができていた。避難場所は、オリエンテーションを実施することで各自確認することができた。 ・トイレの前後や、本を読む前などの消毒についておおむね習慣化することができた。また、鼻をかんだ後の手洗いについては、言葉掛けで行うことができた。	・オリエンテーションの実施が難しい状況の場合は、ブロックごとに確認を行う。  ・今後も継続して感染防止に努めていく。